

つなごろう ～ 友達・自然・ひと ～

広島市立川内小学校 対象学年（5年）

体験活動の種類 自然 文化体験

体験活動場所・宿泊場所 広島市青少年野外活動センター・子ども村

【学校紹介】

○川内学区は、古くは太田川によって形成された沖積地の輪中にあり、広島市の近郊農業が盛んな地区として有名である。明治の中期ごろに始まった広島菜に代表される野菜の栽培とともに、太田川の水利を利用した農産物の集散地として栄えてきた。やがて、ダムの建設とともに水量が減り、陸上輸送が主流になってきたが、度重なる大洪水にもめげず、肥沃な農地の恵みと都市からの下肥、農家の努力によって一大農業地区になった。現在は、都市化の波によって、様々な変化が学区内に広がっている。



児童数は昭和47年頃から増加しはじめ、昭和56年には約4倍の1,160名となった。その後、減少傾向にあったが近年は農地の宅地化が進み、再び増加し、平成19年に1,182名とピークを迎えた。

現在も児童数1,000名を超える大規模校であるが、学区内には、農家も点在し、JAユースの皆様の力を借りて、農作物を育てる活動を年間を通して行っている。中でも、地域の特産物である「広島菜」を栽培し、学校で「広島菜漬け」を作る活動を行っている。

○校長名：阪田 福三

○児童数（学級数）：1,046名（36学級 特別支援学級を含む）

○所在地：広島市安佐南区川内5丁目40番1号

○電話番号：082-877-0044

○URL：<http://cms.edu.city.hiroshima.jp/weblog/index.php?id=e0949>

【体験活動のねらい】

- 集団宿泊活動を通して、児童の自立心や主体性、コミュニケーション能力の育成を図り、望ましい集団生活の在り方について考えさせる。
- 自然や文化に親しむとともに、健康で安全な生活を送り、体力の向上を図る。

【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置づけ	実施場所	指導者
9月	体験活動説明会	1		学校	担任
	事前活動 ○集団宿泊体験の意義, テーマ設定 ○学習テーマの設定, 班活動, 係活動	4	学級活動 総合的な学習の時間	学校	担任
10月	事前学習 ○研究テーマの設定・分担 ○研究テーマの調べ学習 ・インターネット ・資料調べ ○まとめ ○発表会 ○ご飯を炊く学習 ○「残った仕事」4-(3) ○「私のボランティア体験」4-(4)	7	総合的な学習の時間	学校	担任
		1	家庭科 道徳の時間	学校	担任
		1	道徳の時間	学校	担任
10月	集団宿泊活動(3泊4日) ○野外炊飯 ○川魚体験(北広島町) ○竹箸づくり ○ディスクゴルフ ○キャンプファイヤー ○スコアオリエンテーリング	24	家庭科 理科・社会科 図画工作科 学級活動 学級活動 社会科	広島市青少年野外活動センター	担任 養魚場職員
11月	事後活動 ○研究テーマについての資料作成 ○体験活動発表会 ○体験活動の振り返り	5	総合的な学習の時間	学校	担任

【体験活動の概要】

○川魚体験(北広島町)

・目的

川魚をつかみどりするという自然に直接触れる活動を通して, 自然の不思議, 自然を守る大切さを感じさせる。

捕った魚の内臓を出し, 串焼きにし, 炭で焼いて食べるという体験を通して命の大切さやありがたみについても考えさせる。

・場所

大暮養魚場(広島県山県郡北広島町大暮 85-3)



・活動内容

アマゴの養殖の仕方，生態についての学習（養魚場の職員の方から）

炭の火起こし

アマゴの串焼き

・指導について

目的を達成するために，教師が手助けすることをできるだけ少なくし，自分たちで解決することを大切にさせた。



「命をいただく」ということを意識させながら，捕った「アマゴ」の内臓を割り箸で取り出し，串に刺して，塩焼きにしたため，子供たちは，残さず2匹の魚をいただいた。

炭の火起こしも，子供たちが自分たちで行った。

火起こしの難しさを感じながら，試行錯誤の中でそれぞれが火のつけ方を考え，成功させた。



【体験活動の効果を高める事後学習】

- 事前学習の各自のテーマについて再度調べなおし，体験を通してわかったことを中心に，まとめさせるようにした。
- 友達の発表を聞いて新しく知ったことや考えたことを発表者に伝え，やってよかった，調べてよかったと思えるように配慮した。
- 理科「流れる水のはたらき」・・・事前に川の上流や下流，石の形，水の流れる様子など，視点を持たせて観察するよう声をかけた。事後にはそれを思い出しながら学習を進めた。
- 社会科「養殖」・・・・・・・・・・ アマゴの養殖の仕組みの聞き取りと観察は印象深かったので教科書と比較しながら学習した。
- 国語科「森林のはたらき」・・・・ 森林の働きと利用，植林の大切さなど調べることで知識の広がり意識させた学習を展開した。
- 総合的な学習の時間・・・・・・・・ 調べてきたことから「環境」についての問題点とこれからの取組について考えさせた。

【交流先や施設等との連携】

- 事前に現地に行き、他校の活動の様子を観察し、北広島町農山村体験推進協議会の担当者や養魚場の方と当日の動きや使用場所、活動内容、注意事項について打ち合わせをした。
- 活動中は、児童がスムーズに活動できるように配慮したり、児童の安全に留意したりした。
- 事後は、使わせていただいた施設をきれいにしたり、指導してくださった方々への感謝の気持ちを言葉で表したりするよう指導した。

【評価の工夫】

日々の振り返りを大切にさせるために、行動に関する目標と「友達のよさやがんばり」「自分のがんばりや成長」「自然のよさ、気づき」「グループのがんばり、直すべきところ」の観点を挙げて、記述させるようにした。その内容をグループで共有して翌日のめあてを明確にさせるように自己評価を行わせた。



また、事後のまとめの学習を大切にさせ、クラス、学年の高まりを実感できるようにした。

【安全面の配慮事項】

- 2日目、3日目は、学年を2つに分けた活動プログラムとなるため、引率者を増員し、支援体制を確保した。
- グループ活動では、班長を中心に話し合いが十分できるようゆとりを持って行った。
- ゆとりのあるプログラムにすることで、10分前行動・5分前集合を徹底するようにした。
- 縮小したスケジュール表をリーダーが首からかけるようにして、予定を確認しながら主体的に行動できるよう工夫した。
- 野外炊飯場でけがが発生した際にも、落ち着いた行動がとれるように集団規律を徹底していくことが今後の課題である。

【体験活動の成果と課題】

○児童の感想から

私が一番心に残ったことは、「川魚体験」でした。アマゴをつかまうとするとすぐににげるからすばっこいな～と思いました。でも、自分たちではらわたを取る体験は、とても貴重な体験で、命の大切さを学びました。ふだん私たちが食べている肉や魚も命があることを忘れていましたが、川魚体験であらためて命があることがわかりました。だから、「いただきます」や「ごちそうさまでした」と感謝して食べた方がいいということを学びました。これからも食べ物に感謝しようと思いました。

私が岩の間に手を入れて捕ろうとするとぬるっと飛びはねてどこかに行きます。でも、周りの人たちはほとんど捕れます。すると、〇〇君が「ここにアマゴがいっぱいおるよ」と言ったので、手を入れてみると3～4ひきいました。少しすべったけど2ひき捕れました。まわりの人たちは「すごーい」と言ってくれました。まだ捕ってない人とかに教えてあげました。アドバイスをくれなかったら捕れなかったと思います。この体験で命の大切さや自然を育てる大変さがあらためてわかりました。

私が「山・海・島」体験活動で一番心に残ったことは、一日目でやった野外炊飯です。その理由は、みんな自分の役割などその班毎に決めてその決められた仕事をてきぱきやって自分の仕事が終わったら自分の班の人の仕事を手伝ったり、自ら洗い物を洗ったりしていて、協力が十分できていたと思うし、とても楽しく活動して作ったご飯がとてもおいしかったからです。

今日は雨の中のオリエンテーリング。さっそく男子は気合を入れています。女子は男子について行きました。「この辺にあるんだけどなあ」みんなで超ラッキーポイントを見つけています。〇〇君が班を引っばってくれました。「あっ、あったよ～」みんなうれしそうにながめていました。みんなで助け合って得点をたくさんかせぎました。班の男子がけっこうひっぱってくれたのでびっくりしました。みんなで超ラッキーを見つけられたので最高でした。

児童の感想からは、初めて生きた魚を触った経験から、色々なことを感じたという子供が多かった。特に命の大切さについて考えられたことは、大きな成果と考えている。また、日頃、見られなかった友達のよさを知ることができた子供も多くいた。

実体験を通して自然に触れることの大切さを、教師側もあらためて感じさせられるものとなった。しかし、4日間の体験活動のみで、子供たちの成長がなされるのではなく、体験活動で感じたことをきっかけにし、様々なものの考え方、感じ方を学ぶものであろうと考えている。そのため、事後の学習が非常に大切であると感じている。事後に子供たちの心を耕す活動をどのように持つかを計画段階から考えておく重要性を痛感している。